

毘跋毘沙門天(サンスクリット語：Vaiśravaṇa)

毘跋毘沙門天は毘沙門天（多聞天）の顕現であり、四方を守護する四天王の一人です。毘沙門天は北方の王であり、四神の中で最も有力とされています。

毘跋毘沙門天は装甲した武神として描かれており、国の守護者として信仰されています。毘跋は唐王朝時代(618~907年)の西域の王国であり、伝説では滅亡の危機に瀕した王国を毘跋毘沙門天が救ったと言われています。この伝説は、外敵からの国土の守護者という武神の結びつきの基礎となっています。

毘沙門天の像は、衆生の邪悪な欲望を引き起こす有害な悪魔の精霊・邪鬼を踏みつけている姿で多くの場合描かれています。しかし、毘跋毘沙門天は、二藍婆と毘藍婆の二匹の小人鬼が縮み上がった状態で、うねる雲のもとに大地の女神・地天の開いた手のひらで支えられています。彼の左手は釈迦の教えの宝庫を象徴する仏塔を支えています。彼の右腕は、悪の影響を排除し仏教の敵を退治するための警棒のような武器を振り回しています。

この毘跋毘沙門天像は高さ 160cm で九世紀のものです。クスノキの一枚板から彫られています。像の顔の特徴と身体のプロポーションが力と強さを強調しています。この彫像は、より均整のとれた形で表現された典型的な中国のものとは全く異なります。